



全体稽古の様子

—— 出演者が語る「ラ・ボエーム」の魅力

ソリスト陣に『ラ・ボエーム』の魅力を伺うと、「とにかくプッチーニの音楽が美しい。どこかで聞いたことがあるような純愛を描いた青春メロドラマだから、誰もが親しみをもって鑑賞できると思う」と口を揃える。吉田さんは、「この作品は、宮廷とか貴族の物語ではなく庶民の物語なんです。普通の若者を描いている。この延岡の皆さんとつくるオペラにびったりの作品だと思います」とも語った。

—— 順調に進む稽古

6月某日、ソリストの稽古見学に訪れた。成功を誓った結団式から約7か月、本番に向けて稽古は着々と進んでいた。



「一幕からお願いします！」と大きな声が稽古場に響く。声の主は、演出助手の上浦祐美子さんだ。この日は演出家の飯塚さんが不在のため、上浦さんを中心に稽古が進んでいた。上浦さんは、以前大分で飯塚さんが演出していたオペラ公演で、演出助手を務めていたことがあり、出演者からの信頼も厚い。

上浦さんの進行のもと、ピアノ伴奏で歌い演じるソリストたち。各場面の立ち位置や、小道具、動きのタイミングなどの細かい確認作業が続く。



共演を重ね気心知れるメンバーとあつて、稽古場に時折笑い声が響く。アットホームな雰囲気だ。後藤さんが「みんな仲がよくて、チームワークがいい」と話していたのも頷ける。

夕方からは、オーケストラや合唱団総勢約120名での稽古が行われた。創立29年を迎えた延岡フィルハーモニー管弦楽団の指揮・音楽監督を務める椋山達巳さんが、音楽稽古を引っ張る。迫力あるオーケストラ、そのオーケストラに負けない歌声、児童合唱団の姿もあり、舞台は一気に賑やかになる。これに舞台美術、照明、衣装が加わったら…と想像するだけでワクワクした。

—— オペラをもっと気軽に

いまもなお世界中で上演される「オペラ」。その歴史は古く、歌舞伎と同じくらいの歴史があり、最高の舞台芸術ともいわれている。それだけ聞くと身構えてしまいが、百聞は一見にしかず！

後藤さんは、「高校生以下なら1000円ですよ！ たくさんの方に観てもらいたい。オペラデビューにびったりの公演です」と呼びかける。

宮崎在住の山川さんと柳田啓志さん（バリトン）は、「宮崎でも公演できるのが、とても楽しみ。これまで観に行きたくても延岡までは遠いと感じていた方もたくさんいると思うので、この機会にぜひ足を運んでほしい」と語った。

感涙必至の歌劇『ラ・ボエーム』。どうぞ、ハンカチ持参で観に来てください。

ひむかオペラ 第4弾

歌劇「ラ・ボエーム」全4幕（字幕付）

<宮崎公演>

2019.8.18〔日〕 開場 13:30 開演 14:00

【会場】メディキット県民文化センター 演劇ホール

【料金】●指定席：4,000円 ●一般自由席 3,000円

●学生自由席（高校生以下）1,000円

<延岡公演>

2019.8.11〔日〕延岡公演 開場 13:30 開演 14:00

【会場】延岡総合文化センター 大ホール

お問合せ

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚 3-210
http://www.miyazaki-ac.jp

TEL. 0985-28-3208